

日常生活の中で厳しい状況に直面した際、自分なりに努力しても、思い通りに状況が好転せず、心を曇らせてしまうことがあるものです。

そんな時こそ、「よしやるぞ!」と心を前向きに切り替え、行動に移し、一貫して続けていくと、一気に問題が解決に向かうことがあります。

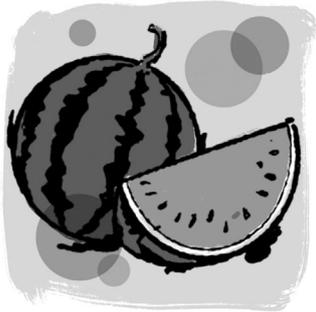
一番身近な存在である夫婦関係を例に考えてみましょう。長年、生活を共にしていると、些細なことで意見のすれ違いや誤解が生じ、それがしこりとなって、離婚に至ってしまうケースもあります。

結婚当初は仲の良かった夫婦も、お互い無関心になってしまふことが少なくありません。夫婦関係の悪化は、一見些細と思える様々な問題が解決しないままになってしまったことにあります。これは経営危機や病気などの際の対応にも当てはまります。

より豊かな生活を営むために大切なことは、相手と意見の相違があった際に生じる責め心や、心の中の小さなしこり（わだかまり）を、できるだけ早い時点で取り除き、修正に向けて努力することです。

たとえ自分に落ち度がないと思っても、進んで相手に歩み寄ってみる。それだけで関係がすぐに改善されるわけではありませんが、この行為自体が自分の気持ちにけじめをつける心の後始末につながるのです。こうした小さな積み重ねこそ、より豊かな生活を創造する足がかりとなります。

この心の後始末は、恐れや憂え、怒りな



日常の営みにこそ 自分を変える道がある

どの感情を受け止め、プラスへと転じることを意味しますが、その根本は日常の足下の実践にあります。

倫理法人会の役職者であるM氏が経営者モーニングセミナーの日に寝坊した時のことです。一瞬、参加することをためらいましたが会場に足を運びました。朝食会で遅刻の件を周囲に詫言ると、「来てくれて嬉しいよ」と労いの言葉をかけられたのです。

その時、以前だったら寝坊した時点で諦めていただろうと思うと共に、今まで自分で決めた目標や約束事に真剣に取り組んでいなかったことを反省したといいます。

私たちは思い通りに状況が運んでいない時こそ、実践の醍醐味を味わうことができているのではないのでしょうか。やれない、やらない理由を捨てて、心を前向きに転じて、サツと行動する。この何気ない日常の練磨が、どのような状況でも、前向きに生きる自分を作っていくのです。

うまくいかない時は、心を転じて再スタートを切る。その日常の実践に物事の成就のヒントがあります。

「人生に失敗はないのだ。すべては成功への道行き、成就の行程……。したがって人生はその瞬間瞬間、常に総力の結集、すべての因子の過不及なき総合調和にある」

『「自分」経営の心得』(一九〇頁)

人は苦難を乗り越えた時に心身共に大きく成長する性質を持ちますが、その道筋は、日常で生じる小さなわだかまりを自らの意思を持って切り替える実践にあるのです。